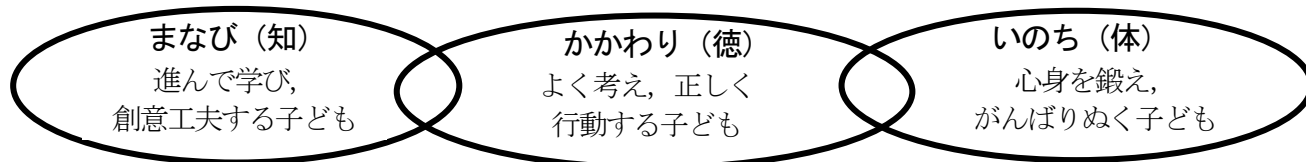


【教育目標】

豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成 ―「まなび」「かかわり」「いのち」―

【目指す子ども像】



《確かな学力》

- ☆ 仲間の考えを聴き、
自らの考えを広げ深める
授業づくり
- ◇ 主体的・対話的で深い学びに
向けた授業改善の推進
- ◇ 生きて働く知識・技能の習得
- ◇ 未知の状況に対応できる思考
力、判断力、表現力の育成
- ◇ 基礎基本の定着と少人数指導
によるきめ細やかな指導・支援
- ◇ 特別支援教育、インクルーシブ教育
への理解と温かな指導・支援
- ◇ 1人1台端末の効果的な活
用、情報モラル教育の推進

《豊かな心》

- ☆ 認められ、尊重され、
自己の存在感を味わえる
仲間づくり
- ◇ 安心できる関係、親和的な集
団づくりの推進(QU, 結EN活用)
- ◇ 道徳教育・人権教育の充実に
よる豊かな人間性と規範意識・
人権意識の醸成
- ◇ 学校行事・学級活動等を通し
た集団への帰属意識の育成
- ◇ 異学年、異校種、地域とのか
かわりを大切にした体験的な活
動の推進

《健やかな心と体》

- ☆ いのちを大切に、
健やかでたくましい
心と体づくり
- ◇ 挨拶、マナー、生活リズム
等の基本的生活習慣の定着
- ◇ 防災・安全教育の推進に
よる安心安全な環境の整備
- ◇ 健康教育、食育、いのち
の教育、性教育の推進
- ◇ 体づくり運動の充実、発
達段階に応じた体力づくり
- ◇ 清掃指導の充実による快
適な校内環境づくり

【目指す学校像】

特色ある学校づくり

開かれた学校づくり

信頼される学校づくり

- 教育目標達成に向けての意図的・計画的で地道な教育活動の実践
- 家庭との連携強化、地域に根ざした教育活動の推進
- 家庭・地域への情報発信、学校評価を生かした教育活動の推進
- 幼保小中連携、コミュニティスクール(地域運営協議会)の推進
- ◇ 子どもが明日も「通いたくなる学校」(安全で安心な環境)
- ◇ 保護者が安心して「通わせたい学校」(信頼・連携)
- ◇ 地域が誇れる「おらが学校」(地域の中核としての役割)
- ◇ 教職員が生かされ「働きがいのある学校」(同僚性・専門性)

☆ 明るく 楽しく 元気な学校 ☆ ありがとうと笑顔いっぱいの学

【現職教育研究主題】

「自ら学びを紡ぐ子どもたち」

【本年度の重点努力目標】

- ① 安全な学校環境の中で、安心できる人間関係・居場所づくり、親和的な集団づくりに努める。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業づくりを通して、自ら学びを紡いでいける子を育てる。
- ③ 道徳教育、人権教育の充実を図り、豊かな人間性と人権意識・規範意識の醸成に努める。
- ④ 特別支援教育・インクルーシブ教育への理解を図り、個に応じた細やかで温かな指導・支援を進める。
- ⑤ 学校における「あたりまえ」を見つめ直し、生活・学習面での「あたりまえ」を磨いていく。
- ⑥ 同僚性・専門性を高め合える教職員集団、互いに支え合える風通しのよい職場環境づくりを進める。

☆ 重点努力目標の具現化に向けて

① 安心できる人間関係・居場所づくり，親和的な集団づくり

- ア 親和的で温かい学級づくりを進める……教師と子ども，子ども同士の良好な関係づくり
- イ 学校行事（運動会，発表会等），学年行事を生かした学年・学級の集団づくりを意識する
- ウ 学級活動，授業を通して自治的な活動を推進する……児童の手で創りあげる喜び・満足感

② 「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業づくりにより学びを紡ぐ

- ア 研究主題「自ら学びを紡ぐ子どもたち」の具現化……対話を意識した協動的な学びを追究する
- イ 中・高学年において教科担任制（専科・学年）を導入し，教師の専門性と確かな学力を付ける
- ウ 1人1台端末の授業における効果的活用を図り，個の問いを大切にしたい個別最適な学びを追究する
- エ 機知（アイデア・ウィット）と理知（論理的な考え）のある活動・学びを創造していく
- オ 外部講師の研修，自らを高める研修を進める……授業づくりは吉永紀子先生（同志社女子大）

③ 道徳教育，人権教育の充実，豊かな人間性と人権意識・規範意識の醸成

- ア 道徳科の授業の充実を図る……実態に即した内容項目の重点化，ローテーション道徳，資料の共有等
- イ 人権教育の推進を図る……人権週間の取組，人権擁護委員との連携
- ウ 実態に応じた生活指導，同歩調での生活指導を進め，マナー・規範意識を高める
……挨拶，廊下歩行，けが防止，休み時間の過ごし方，通学班の登下校指導 等
- エ 清掃指導（もくもく清掃＝黙々と掃除をする），委員会活動を通して，学校環境の整備を進める

④ 特別支援教育・インクルーシブ教育への理解，個に応じた細やかで温かな指導・支援

- ア 特別支援学級の指導……支援学級全員での活動（朝の会，生活单元等），協同による指導体制
- イ 個の特性に応じた通級指導教室（ひまわり学級）の活用
- ウ 支援の必要な子を巻き込んだ通常学級での指導（インクルーシブ教育），支援員との連携
……少人数指導，個別の指導，ペア・グループ活動，タブレット活用などを効果的に組み合わせて

⑤ 学校における「あたりまえ」を見つめ直し，生活・学習面での「あたりまえ」を磨く

- ア 全体指導中心からペア・グループ中心，一斉学習からタブレットを活用した個別学習，TT（チーム・ティーチング）から少人数指導など，これまでの学習スタイルを見つめ直し，新たな方法を模索する
- イ 教えることと考えさせることを明確にして，児童が自ら考えたことをもとに仲間の力を借りながら学びを獲得していくための学習スタイルを模索する
- ウ 「～してはいけない」指導から「～しよう」という前向きな指導へ，指導方法を転換していく

⑥ 同僚性・専門性を高め合える教職員集団，互いに支え合える風通しのよい職場環境づくり

- ア 教師同士の学び合い，授業や子どもを話題にしたコミュニケーション，気軽に相談し合える関係性など，風通しのよい職場環境でこそ教師も子どもも成長できる
- イ 学年担任団で学年全体を育てる，一人1授業で学級を開く，自らの学びを教師間で共有するなど，教職員も協動的な学びにより教師力の向上を図る